

退公連耶麻支部会報

No. 57

発行・・・支部長 矢部 宥一

発行所・・・耶麻支部広報部

<巻頭言>

新しい年を迎えて

支部長 矢部 宥一



今年は正月早々経験したことのない豪雪になりましたが、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。インフルエンザの流行が始まり、コロナ感染はまだまだ収まらず、毎日の生活にマスクが手放せないという新年になりそうです。

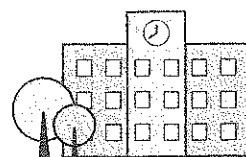
退公連の活動については、会員の減少や高齢化という問題は今年も同じですが、予定されていた活動は、皆様のご協力により進めることができました。

9月5日には、1年おきに実施される県大会（退公連福島大会）が福島市飯坂にある「パルセ飯坂」で開催され、耶麻地区から会員7名が参加することができました。コロナ感染が続いたため6年ぶりの開催になりましたが、久しぶりに他地区の会員とも会えて、県大会を開催できることの喜びを感じることができました。2年後は会津で県大会が開催予定ですので、11月30日に会津地区の各支部の支部長会議が開催され、北会津地区が担当し、他地区も協力していくことが了解されました。会員が少ない中、県大会を開催していくのはたいへんですが、ご協力をお願いします。

私にとって、今年の豪雪はいろいろなことを感じ取るいい機会になっています。その一つは、除雪に息が切れたり、数日後の身体の痛みに苦しんだり、身にしみて年令を感じ取っています。それでも、自分たちの小さな力を積み上げていくしかないということです。今年も、希望を持って、前を向いて、がんばっていききたいと思っています。

この頃考える事

副支部長 山口 啓輔



三ヶ月程前行政区長という事で招集があった。中学校の統合についての意見聴取である。子ども（小・中学校）が減少したことに伴う中学校の統合である。

周辺の地区では、統廃合が進んでいる。子どもの減少と交通機関、道路事情の改善があるのだろうか。学校としての独自の活動が思うにまかせない。学校が地域文化活動の拠点と考えていた私には、何ともやり切れない思いである。

私の住んでいる地区もご多聞にもれずといった所です。人口の減少に伴い、空き地、空き家は増えている。それに伴い野生動物が増え、狐、ハクビシン、野良猫等増えている。担当する町内会も空き家の増加、会員数の減少、人口の減少が際立っている。

市役所に相談に行っても解決の糸口は見い出せない。原因は①子ども、若者が希望する仕事がない

い。②高等教育機関がない。という理由が考えられる。原因は、ほぼはっきりしている。市役所に相談に行っても何ら解決策は見当たらない。何らかの対策をうたないと、手遅れになってしまうと気にかかる昨今である。

街を歩く

安部 一之

忘れ欠けていた何かに
出会えるかも知れません

決して無理強いはしませんが
時間に少しの余裕が生まれましてら
近くの道の
日頃歩き慣れた風景でも
ちょっと触れてはみませんか
何時もとは違った
不思議な時間に遭遇するかも知れません



億劫がらずに
背を押してくれた誰かのために
歩いてみてはどうでしょう
新しい時間との出会いが
明日をしっかり歩かせてくれるでしょう

朝焼け

安部 一之

林立する
街の背中を
光りが
いささかに激しく
静寂を作り上げている

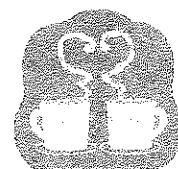


3 5 6 9 ^{さきもり}防人に立ちし^{あさけ}朝明の^{みなとで}金門出に
^{てばな}手放れ惜しみ泣きし兒らばも

^{さきもり}防人の歌（万葉）

渡し舟の思い出

～私が長髪をなびかせていた頃の話～ 事務局長 青山 邦夫



それは、今から 50 年以上前の大学一年の春爛漫とした時期の阿武隈川の思い出で私は希望通りの地元の国立大学に入れて、ルンルン気分で毎日の大学生活を楽しんでいた。

そんな 5 月の連休前、同じゼミで阿武隈川の辺りを散歩しようということになり、担当教官の案内で、隈畔^{わいはん}サイクリングコースを回った。当時は多分、1 回の運賃というか、渡し賃が 50 円だったと思うが、皆で交替で渡し舟に乗ろうということになり、私は内心、入学以来ずっと気になっていた彼女と一緒に乗れるかな？と胸を弾ませた。

山形の長井出身というその彼女は、入学式の時から目立っていて、うさぎの眼のようにクリクリとした大きな瞳が特徴で、笑うと八重歯が光り、片エクボが魅力的だった。

あっという間にクラスというか、大学中のアイドルとなってしまったが、本人はそんなことは全然関係ないようで、休み時間や休講の時など、学食でよく向かい合って 100 円でお釣りのくるカレーライスを食べていた。

その彼女とジャンケンで運よく組になり、他の男子学生に羨ましがられたり、冷やかされたりした阿武隈川の渡しは、私にとっては長い時間を感じられた。このまま沈んでもいいなんて思える程に。ただ 2 人して舟から陸に降りる時にバランスを崩してしまい、彼女が「キャー」なんて叫びながら、思わず私の胸にしがみついてきた時、私は頭が真っ白になってしまい、周りのどよめきや嬌声は全く耳に入らなかった。と同時に、なんと気の利いた船頭さんかと、神様に感謝した。

彼女は、その後、多くの男性から冷たい視線を浴びせられている私の背中に回りながら「さっきはごめんね。」「びっくりした？」なんてイタズラっぽく話しかけてきた。その夜のコンパでも、私は肩身を狭くしながら飲んでいたが、彼女は何故か「真室川音頭」を唄ってハシャイでいた…。

賛助会費について

会計主任 宮城 悠子

今年度も、耶麻地区内の小・中・高等学校より、別表のように賛助金のご協力をいただきました。学校を訪問し、そして依頼をしていただきました関係会員の皆様に厚く御礼申し上げます。退公連の活動に有効に使わせていただきます。

記



令和 6 年度 賛助会費の集計

項目	学校名	小学校	中学校	高等学校	合計
学校数		19	9	3	31校
人数		174	102	52	328人
金額		56,100円	32,726円	9,637円	98,463円

雪深い今シーズン『除雪』に思うこと

事務局長 青山 邦夫



近年にない豪雪に見舞われた1月上旬。

大変厳しく、そして不便で不安な生活を強いられてきたが、町内会の区長として約5年の私には、除雪の依頼や要望が朝・昼・晩と殺到した。まあ、それは立場上、そしてその役割を踏まえ仕方のないことで、どの区長さんも尽力していることだが、早朝から深夜まで稼働している除雪のオペレーターの人や窓口として対応している役所の方々のご苦勞を考えると、「もう少し言い方があるのではないかな」と思うこともある。イラ立ちを押さえ、やんわりと言ってくる人と一方的な苦情に終始する人に大別される。後者の人が圧倒的に多いが…。そして、（私が除雪したわけではないが）除雪作業が終了したという連絡を受け、町内の人などからお礼を言われたりすると何となくうれしくなる。子どもの頃、「人に助けられたらお礼を」と教えられ、教頭になってからは、「役所や業者に依頼するだけでなく、完了したらその報告と感謝を」と教えられた。お礼を言われるためにやっているのではないが、そのひと言があればそれは人と人との融和剤ともなる。

家族の思いやり



事務局次長 舟城 久善

コロナが第5類に移行して四ヶ月、一昨年8月下旬、猛暑の中で罹患してしまった。それまで、コロナは他人事のように思っていたので、愕然としたことをつい昨日のここのようにはっきり覚えている。

手指消毒や手洗い等のコロナ対策は一応していたつもりだが、マスクは、ほとんどしていなかった。原因は、その数日前に家族が罹患したことだ。当然その後数日間は、家の中でほぼ隔離された生活を送った。幸い症状は軽い咳程度だったので、時間を持て余して、退屈な時間を過ごしていた。

そんな中で感じたのは、家族、特に妻に対する感謝の念である。三度の食事を隔離された部屋へ運び、再び食べ終えた食器を回収することが一週間以上続いた。

同じ家に住んでいて、家族と自由に会えない、話が出来ないという不自由さを十分に味わった。同時に心配してくれる家族の思いやりである。病気やケガをして初めて身に染みる家族の存在にささやかな幸せを感じることができた時間であった。

編集後記

広報副部長 青山 邦夫

会員数が百名を少し超える程度の人数になり、広報の原稿を依頼するのにもひと苦勞しているのが現状ですが、今回も快く引き受けてくださいました寄稿者の皆様に厚く御礼申し上げます。今年は1月、2月と、会津でも今までにあまり経験したことのない豪雪、そして長い期間での雪害で、新聞・テレビ等連日報道されました。でも、こうした逆境を経験したからこそ、またひと回り力強く生きていける糧になったと思ひ込みたいものです。そして、広報で情報の伝達や活動の啓蒙を図っていきたいと思っています。